

平成24年度採択プログラム 事後評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	東京大学	整理番号	K01
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) ごのかみ まこと 氏名・職名 五神 真(東京大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) いしかわ まさとし 氏名・職名 石川 正俊(東京大学大学院情報理工学系研究科長・創造情報学専攻)(平成28年4月1日交替)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) くによし やすお 氏名・職名 國吉 康夫(東京大学大学院情報理工学系研究科教授・知能機械情報学専攻)		
4. 類型	K<複合領域型(情報)>		
5.	プログラム名称	ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム	
	英語名称	Graduate Program for Social ICT Global Creative Leaders	
	副題		
6. 授与する博士 学位分野・名称	分野:情報理工学, 学際情報学, 社会情報学, 工学, 医学, 保健学, 農学, 教育学, 経済学, 法学 博士(情報理工学), 博士(学際情報学), 博士(社会情報学), 博士(工学), 博士(医学), 博士(保健学), 博士(農学), 博士(教育学), 博士(経済学), 博士(法学) 学位記に「ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム」の修了を付記		
7. 主要分科	(① 情報学) (② 電気電子工学) (③ 社会・安全システム科学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 機械工学, 都市計画・建築計画, 看護学, 農業工学, 社会医学, 数学, 心理学, 経営学, 経済学, 政治学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入 情報学基礎, ソフトウェア, 計算機システム・ネットワーク, メディア情報学・データベース, 知能情報学, 知覚情報処理・知能ロボティクス, 感性情報学・ソフトコンピューティング, 図書館情報学・人文社会情報学, 認知科学, 統計科学, 生体生命情報学, 社会システム工学・安全システム, 公衆衛生学・健康科学, 地域・老年看護学, 農業土木学・農村計画学, 農業情報工学, 臨床心理学, 経営学, 経済政策, 政治学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	情報理工学系研究科(コンピュータ科学専攻、数理情報学専攻、システム情報学専攻、電子情報学専攻、知能機械情報学専攻、創造情報学専攻)、学際情報学府(学際情報学専攻)、工学系研究科(都市工学専攻、電気系工学専攻)、医学系研究科(社会医学専攻、健康科学・看護学専攻、公共健康医学専攻)、農学生命科学研究科(農学国際専攻)、教育学研究科(総合教育科学専攻)、経済学研究科(マネジメント専攻)、公共政策大学院、法学政治学研究科(総合法政専攻)		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	日本経済団体連合会、日本情報システム・ユーザー協会、日本規格協会、科学技術・学術政策研究所、統計数理研究所、国際協力機構、ISO、NPO法人EduceTechnologies、東京海上日動火災保険、日本IBM、Google、Microsoft、Infosys、NTTデータ、新日鉄住金ソリューションズ、e-Corporation.JP、ETH、Manchester Univ.、UC Berkeley、Technische Universität München、Université Pierre & Marie Curie、Chulalongkorn University、内閣官房、経済産業省、総務省、Diass、科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンター、Portfolio Solutions、Preferred Networks、Japan Digital Design、筑波大学		

氏名		フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
14. プログラム担当者の構成計 98名						
外国人の人数		14	人	[14.4 %]	女性の人数 12 人 [12.2 %]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [67.0 %]						
プログラム実施大学に属する者				65	人	プログラム実施大学以外に属する者 33 人
そのうち、他大学等を経験したことのある者				52	人	そのうち、大学等以外に属する者 25 人
15. プログラム担当者						
(プログラム責任者)						
石川 正俊 (H28.4.1 交替)		イシカワマサトシ		大学院情報理工学系研究科・研究科長	システム 情報学 工学博士	プログラム全体の統括
(プログラムコーディネーター)						
國吉 康夫		クニヨシヤスオ		大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	知能システム 情報学 工学博士	プログラム推進に関わる企画・統率・調整全般、運営協議会議長、推進委員長、企画戦略室長、事務局長
萩谷 昌己		ハギヤマサミ		大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授/同研究科 ソーシャルICT研究センター・センター長	コンピュータ 科学 理学博士	サブコーディネーター (プログラム コーディネーター補佐)
坂井 修一 (H28.4.1 交替)		サカイシュウイチ		大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻・教授	安全・安心 情報システム学 工学博士	キャリアパス形成委員長
今井 浩		イマイヒロシ		大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	アルゴリズム 論 工学博士	キャリアパス形成委員
小林 直樹		コバヤシナオキ		大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	ソフトウェア 検証 博士 (理学)	運営協議会委員
須田 礼仁		スダレイジ		大学院情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻・教授	並列高性能 計算 博士 (理学)	入試・学位審査委員長
山西 健司		ヤマニケンジ		大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	機械学習、 データマイ ニング 博士 (工学)	キャリアパス形成委員
松尾 宇泰		マツオタカヤス		大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻・教授	数値解析学 博士 (工学)	学生評価委員長

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
中村 宏	ナカムラヒロシ		大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・教授	コンピュータ システムアー キテクチャ 工学博士	キャリアパス形成委員
奈良 高明	ナラタカアキ		大学院情報理工学系研究科 システム情報学専攻・教授	計測工学、数 理工学 博士(工学)	連携推進委員、学生評価委員
相澤 清晴	アイザワキヨハル		大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻・教授	映像・メディ ア処理 工学博士	プロジェクトインキュベーション機構 員、学生評価委員
伊庭 斉志	イバヒトシ		大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻・教授	進化計算 工学博士	学生評価委員
苗村 健	ナエムラタケシ		大学院情報学環・学際情報学府学際情報学専 攻・教授	実世界指向メ ディア工学 工学博士	グローバルデザインWS企画推進機構長
下山 勲	シモヤママイサオ		大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	MEMS ロボ ティクス 工学博士	学生評価委員
中村 仁彦	ナカムラヨシヒコ		大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	ロボティクス 工学博士	運営協議会委員
廣瀬 通孝	ヒロセミチタカ		大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻・教授	ヒューマンイ ンタフェース 工学博士	キャリアパス形成委員
稲葉 雅幸	イナバマサユキ		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	ロボティクス 工学博士	プロジェクトインキュベーション機構員
江崎 浩	エサキヒロシ		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	インター ネット 工学博士	運営協議会委員、プロジェクトインキュ ベーション機構員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
千葉 滋	チバシゲル		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・教授	ソフトウェア 博士(理学)	学生評価委員、キャリアパス形成委員
中山 英樹	ナカヤマヒデキ		大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻・講師	コンピュータ ビジョン 博士(情報理 工学)	カリキュラム委員
合原 一幸	アイハラカズユキ		生産技術研究所・教授	複雑システム 学 工学博士	連携推進委員
喜連川 優	キツレガワマサル		生産技術研究所・教授/国立情報学研究所長・ 教授	データ工学 工学博士	評価・計画WG委員
生田 幸士	イクタコウジ		先端科学技術研究センター・教授	医用マイク ロ マシ ン 工学博士	運営協議会委員
須藤 修	スドウオサム		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会情報学、 情報経済論 経済学博士	プロジェクトインキュベーション機構員
田中 秀幸	タナカヒデユキ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会情報学 M. A. (IR)	学生指導委員
橋元 良明	ハシモヒデアキ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	社会心理学 修士 (社会学)	カリキュラム委員、キャリアパス形成委 員
暦本 純一	レキモトジュンイチ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	Human Computer Interaction 博士(理学)	グローバルデザインWS企画推進機構員
水越 伸	ミズコシシン		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	メディア論 修士 (社会学)	グローバルデザインWS企画推進機構員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
中尾 彰宏	ナカオアキヒロ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・教授	計算機科学 Ph. D	プロジェクトインキュベーション機構員
大島 まり	オオシママリ		生産技術研究所・教授	バイオ・マイ クロ流体工学 工学博士	キャリアパス形成委員
飯塚 敏晃	イツカトシアキ		公共政策教育部 公共政策学専攻・教授	医療経済学 産業組織論 Ph. D.	キャリアパス形成委員
奥村 裕一	オクムラヒロカズ		公共政策学教育部 公共政策学専攻・客員教授	行政近代化と ICT 教養学士	運営協議会委員、企画戦略室員
金井 利之	カナイトシユキ		大学院法学政治学研究科 総合法政専攻・教授	自治体行政学 法学士	学生評価委員、カリキュラム委員
藤本 隆宏	フジモトタカヒロ		大学院経済学研究科・マネジメント専攻・教授	技術・生産 管理 D. B. A	キャリアパス形成委員
新宅 純二郎	シンタクジュンジロウ		大学院経済学研究科・マネジメント専攻・教授	経営戦略 経済学博士	運営協議会委員、プロジェクトインキュ ベーション機構員、学生評価委員
相田 仁	アイダヒトシ		大学院工学系研究科・電気系工学専攻・教授	情報通信工学 工学博士	キャリアパス形成委員
峯松 信明 (H28. 4. 1追加)	ミネマツノフアキ		大学院工学系研究科・電気系工学専攻・教授	信号処理工学 工学博士	運営協議会委員
浅見 泰司	アサミヤスシ		大学院工学系研究科 都市工学専攻・教授	都市計画、都 市住宅学、空 間情報科学、 Ph. D.	運営協議会委員、グローバルデザインWS 企画推進機構員
溝口 勝	ミゾグチマサル		大学院農学生命科学研究科 農学国際専攻・教授	国際情報農学 農学博士	運営協議会委員、 プロジェクトインキュベーション機構 員、グローバルデザインWS企画推進機構 員
下山 晴彦	シモヤマハルヒコ		大学院教育学研究科 総合教育科学専攻・教授	臨床心理学 博士 (教育学)	運営協議会委員、グローバルデザインWS 企画推進機構員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
真田 弘美	サナダヒロミ		大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻・教授	看護学 博士(医学)	キャリアパス形成委員
松山 裕 (H28.4.1追加)	マツヤマユタカ		大学院医学系研究科 公共健康医学専攻・教授	生物統計学 博士 (保健学)	運営協議会委員
大江 和彦	オオエカズヒコ		大学院医学系研究科・社会医学専攻・教授	医療情報学 医学博士	学生評価委員
小林 廉毅	コバヤシヤスキ		大学院医学系研究科・公共健康医学専攻・教授 (兼任)社会医学専攻・教授	公衆衛生学 医療政策 医学博士	キャリアパス形成委員
篠田 裕之	シノダヒロユキ		大学院新領域創成科学研究科複雑理工学専攻・ 教授	計測工学 博士(工学)	学生評価委員
國廣 昇	クニヒロノボル		大学院新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻・准教授	暗号理論 情報 セキュリティ 博士(工学)	連携推進委員
橋田 浩一	ハシダコウイチ		大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究セ ンター・教授/副センター長	自然言語処 理、個人デー タ管理、オン トロジー工学 理学博士	カリキュラム委員、プロジェクトイン キュベーション機構員
大西 立顕	オオニシタカアキ		大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究セ ンター・准教授	数理工学 博士(科学)	カリキュラム委員
中田 登志之	ナカタトシユキ		大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究セ ンター・教授	次世代社会シ ステムICT 工学博士	サブコーディネーター(プログラムコー ディネーター補佐)、企画戦略室員プロ ジェクトインキュベーション機構・副機 構長、キャリアパス形成委員

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
谷川 智洋 (H28. 4. 1追加)	タニカワトモヒロ		大学院情報理工学系研究科知能機械情報学専攻・特任准教授	複合現実感・ ヒューマンイ ンターフェー ス 博士(工学)	プログラムコーディネーター補佐、学生 評価委員、学生指導委員
塚田 学 (H28. 4. 1追加)	ツカダマナブ		大学院情報理工学系研究科創造情報学専攻・特 任助教	協調型高度道 路交通システ ム(ITS)と ネットワーク 視聴サービス の仮想化 博士(情報工 学), Mines ParisTech	学生指導委員、カリキュラム委員、グ ローバルデザインWS企画推進機構
Gharehbaghi AmirMasoud (H28. 4. 1追加)	ガラバギ アミル マスード		大学院工学系研究科電気工学専攻・特任助教	サイバーフィ ジカルシステ ム、組み込みソ フトウェア解 析、ハイレベ ルなハード ウェア設計 博士(コン ピューター 工学)	学生指導委員、カリキュラム委員
後藤 智香子 (H28. 4. 1追加)	ゴトウチカコ		大学院工学系研究科都市工学専攻・特任助教	住環境まちづ くり、コミュ ニティ・デザ イン、都市 計画 博士(工学)	学生指導委員、グローバルデザインWS企 画推進機構員

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
朴 英元 (H28. 4. 1追加)	パクヨンウォン		大学院経済学研究科マネジメント専攻・特任准教授	情報・技術経営戦略 博士(学術)	共通必修講義担当
会田 大也 (H28. 4. 1追加)	アイダダイヤ		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・特任助教	メディアアート、ミュージアムエデュケーション 修士(メディア表現)	学生指導委員、グローバルデザインWS企画推進機構員
菅沼 慎一郎 (H28. 4. 1追加)	スガヌマシロウ		大学院教育学研究科総合教育科学専攻臨床心理学コース・特任助教	臨床心理学 博士(教育学)	学生指導委員、学生評価委員
竹内 由則 (H28. 4. 1追加)	タケウチヨシノリ		大学院医学系研究科公共健康医学専攻・特任助教	薬剤疫学、生物統計学 博士(獣医学)、公衆衛生学修士	学生指導委員、グローバルデザインWS企画推進機構員
杜 平 (H28. 4. 1追加)	デュピン		大学院情報学環・学際情報学府 学際情報学専攻・特任講師	情報学 博士(情報学)	学生指導委員、学生評価委員
小泉 秀樹 (H29. 4. 1追加)	コイズミヒデキ		大学院工学系研究科都市工学専攻・教授	まちづくり 博士(工学)	運営協議会委員、グローバルデザインWS企画推進機構員
八木 信行 (H29. 4. 1追加)	ヤギノブユキ		大学院農学生命科学研究科農学国際専攻・教授	水産学 博士(農学)	キャリアパス形成委員
滝沢 龍 (H29. 4. 1追加)	タキザワリュウ		大学院教育学研究科総合教育科学専攻・准教授	臨床心理学、精神医学・MD PhD(医学)	キャリアパス形成委員、カリキュラム委員
上別府 圭子 (H29. 4. 1追加)	カミベツキョコ		大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻・教授	保健学 保健学博士	学生評価委員

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
杉野 弘明 (H29. 4. 1追加)	スギノヒロアキ		大学院農学生命科学研究科・農学国際専攻・特任助教	環境心理学 博士(人間環境学)	グローバルデザインWS企画推進機構員、 学生評価委員
楊 溪 (H30. 4. 1追加)	ヨウケイ		大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻・特任助教	コンピュータ グラフィックス 博士(工学)	学生指導委員、学生評価委員
南 悦郎 (H30.4.1追加)	ミナミエツロウ		新日鉄住金ソリューションズ株式会社 技術本部・ 上席執行役員 技術本部長	MS.金属工学 修士	評価・計画WG委員長、キャリアパス形成委員
浅川 智恵子	アサカワチエコ		日本IBM 基礎研究所 IBMフェロー	HCI (アクセシビリティ) 博士(工学)	キャリアパス形成委員
鈴木 久美	スズキヒサミ		Microsoft Senior Program Manager (米国)	自然言語処理 とその応用 博士 (言語学)	キャリアパス形成委員
Feng Zhao	フン ツァオ		Microsoft Microsoft Research Asia Assistant Managing Director(中国)	センサ・ネット ワーク、ク ラウド・コン ピュー ティング Ph. D.	キャリアパス形成委員
安藤 穰 (H27. 4. 1追加)	アンドウジョウ		Infosys Limited, Marketing Manager	マーケ ティング 学士 (経済学)	キャリアパス形成委員
工藤 拓	クドウタク		Google Inc. ソフトウェアエンジニア	統計的自然言 語処理 博士(工学)	キャリアパス形成委員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
長洲 毅志	ナガスタケン		国立研究開発法人科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター 統合推進事業統合化推進プログラム研究総括 (H30.4.1変更)	分子生物学 創薬科学 薬学博士	プロジェクトインキュベーション機構 員、キャリアパス形成委員
牧野 司	マキノツカサ		東京海上日動火災保険株式会社 業務企画部次長 兼 IT企画部参事 (H30.4.1変更) 東京海上研究所 主席研究員 日本情報システム・ユーザー協会主任研究員 経団連・情報通信委員会 (H28.7.1追加)	最新ICT動向 の 調査・研究 経済学士	評価・計画WG委員、学生評価委員、キャ リアパス形成委員
Sophia Ananiadou	ソフィア アナニアドゥ		University of Manchester School of Computer Science Professor (英国)	自然言語処理 テキスト マイニング Ph. D.	連携推進委員
Bertrand Meyer	バーランド マイヤー		ETH Zürich Department of Computer Science Professor (スイス)	ソフトウェア 工学 Ph. D.	連携推進委員
Daniele Gerundino	ダニエル ゲルンディノ		ISO Strategic Adviser to the Secretary-General (イタリア)	標準化, イノ ベーション, サステナブル 開発 Doctor in Physics	連携推進委員
Kameshwar Poola	カメッシュワル ポーラ		UC Berkeley Department of Mechanical Engineering Professor (米国)	電気工学 Ph. D.	連携推進委員
Sandra Hirehe	サンドラ ヒルシュ		Technische Universität München Institute of Automatic Control Engineering Professor (ドイツ)	制御工学、 ネットワーク 協調制御 Dr.-Ing.	連携推進委員
Serge Fdida	サージ フティダ		Université Pierre & Marie Curie Computer Science Department Distinguished Professor (フランス)	ネットワー ク 学 Ph. D	連携推進委員

15. プログラム担当者一覧(続き)					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
Somboon Sangwongwanich	ソンプーン サンウォンワニッチ		Chulalongkorn University Dept. of Electrical Engineering Assistant Professor (タイ)	電力工学/ス マートグリッ ド技術 Dr. Eng	連携推進委員
Stephen Jenner	スティーブン ジュンナー		Portfolio Solutions Co. Ltd. Director (英国)	プロジェクト ポートフォリ オ・利益管理 M. St., MBA	連携推進委員
廉 宗淳	ヨム ジョンスン		e-Corporation, JP(株) 代表取締役社長	電子政府・ 電子自治体 修士(国際情 報通信)	連携推進委員
丸山 宏	マルヤマヒロシ		株式会社Preferred Networks/最高戦略責任者 (H29.12.1変更)	計算機科学 博士(工学)	カリキュラム委員、 評価・計画WG委員
松井 知子 (H29.12.1追加)	マツイトモコ		情報・システム研究機構 統計数理研究所 データ科学研究系・研究主幹・教授	統計的機械学 習、音声情報 処理 博士(工学)	カリキュラム委員、 評価・計画WG委員
楠 正憲	クスノキマサノリ		Japan Digital Design株式会社 Chief Technology Officer 業務開発部 部長/内閣官 房 情報通信技術(I T) 総合戦略室(H30.4.1 変更) 政府CIO補佐官/内閣官房 社会保障改革担当室 番号制度推進管理補佐官	技術政策・国 際標準化・電 子行政 学士(経済 学)	評価・計画WG委員、プロジェクトイン キュベーション機構員、キャリアパス形 成委員
川島 宏一	カワシマヒロイチ		筑波大学システム情報系社会工学域・教授 (H28.4.1変更)	公共イノベ ーション 社会工学博士	連携推進委員
松永 明	マツナガアキラ		経済産業省 地域経済産業審議官 (H30.4.1変 更)	I T戦略 LL. M.	評価・計画WG委員、キャリアパス形成委 員
平本 健二	ヒラモトケンジ		内閣官房 政府CIO上席補佐官 兼 経済産業省 CIO補佐官(H30.4.1変更)	電子政府 情報システム 工学修士	連携推進委員
鈴木 茂樹	スズキシゲキ		総務省 総務審議官 (H30.4.1変更)	情報通信政策 農学士	評価・計画WG委員、キャリアパス形成委 員
高地 圭輔	タカチケイスケ		公益社団法人日本経済研究センター研究本部予 測分析部主任研究員	ブロードバン ド 電子自治体 博士(経済 学)	学生評価委員
田中 正躬	タナカマサミ		財団法人日本規格協会 特別アドバイザー	国際標準問題 M. Phil	キャリアパス形成委員

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
奥和田 久美	オクワダクミ		Diass 代表 (H30.4.1変更)	科学技術政策 科学技術予測 工学博士	評価・計画WG委員、学生評価委員
横尾 淑子 (H30.4.1追加)	ヨコオヨシコ		科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター長	科学技術予測 修士(家政学)	評価・計画WG委員、学生評価委員
佐野 景子	サノケイコ		独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 人間開発部 高等教育・社会保障グループ	社会保障 学士 (外国語 学)	連携推進委員
東川 淳紀	ヒガシカワアツノリ		株式会社NTTデータ グループ経営企画本部 課長	組織ガバナンス/ITガバナンス 修士 (工学)	連携推進委員、キャリアパス形成委員
満塩 尚史 (H26.4.1追加)	ミツシオヒサフミ		経済産業省 商務情報政策局情報政策課 情報プロジェクト室 C10補佐官	電子行政 博士 (物理)	評価・計画WG委員
五十嵐 大和(H28.10.1追加)	イガラシヒロカズ		総務省 総合通信基盤局電波部電波政策課 統括補佐	電波政策、情報通信政策 修士(工学)、 MS(Engineering and Public Policy)	連携推進委員
山内 祐平	ヤマウチユウヘイ		特殊非営利活動法人EduceTechnologies代表理事/大学院情報学環・学際情報学府・学際情報学専攻・教授	教育工 学・学習環境 デザイン論 博士 (人間科学)	グローバルデザインWS企画推進機構員、カリキュラム委員

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成30年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 *(今後の募集予定: 有・〇無)	
プログラム募集定員数	0	70	70	75	70	70	70	
① 応募 学生 数	0	87	76	98	66	60	56	
	うち留学生数	0	9	13	22	13	14	
	うち自大学出身者数	0	46 (1)	34 (1)	48 (9)	32 (2)	33 (2)	26 (2)
	うち他大学出身者数	0	41 (8)	42 (12)	50 (13)	34 (11)	27 (8)	30 (12)
	うち社会人学生数	0	3 (0)	23 (4)	24 (11)	6 (2)	10 (3)	12 (4)
	うち女性数	0	21 (2)	24 (3)	26 (5)	19 (5)	17 (2)	17 (3)
② 合格 者数	0	57	66	77	58	55	49	
	うち留学生数	0	3	11	19	10	13	
	うち自大学出身者数	0	36 (1)	29 (1)	36 (7)	28 (2)	31 (2)	24 (2)
	うち他大学出身者数	0	21 (2)	37 (10)	41 (12)	30 (8)	24 (6)	25 (11)
	うち社会人学生数	0	3 (0)	21 (3)	21 (7)	3 (1)	10 (3)	8 (3)
	うち女性数	0	13 (1)	24 (3)	21 (5)	17 (4)	16 (2)	14 (3)
③ ②の うち 履修 生数	0	54	60	70	52	49	46	
	うち留学生数	0	3	10	17	8	11	
	うち自大学出身者数	0	33 (1)	28 (1)	32 (7)	26 (1)	28 (1)	23 (1)
	うち他大学出身者数	0	21 (2)	32 (9)	38 (10)	26 (7)	21 (6)	23 (10)
	うち社会人学生数	0	3 (0)	21 (3)	21 (7)	2 (0)	9 (3)	7 (4)
	うち女性数	0	13 (1)	22 (3)	21 (5)	13 (0)	14 (2)	12 (2)
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	0.00倍	1.53倍	1.15倍	1.27倍	1.14倍	1.09倍	1.14倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	0%	81%	94%	103%	83%	79%	70%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成30年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成30年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】情報通信技術(ICT)が世界中の人と事物を複雑に結び、急速に変動する未経験の社会経済システムが出現する中で、次々と発生する**新たな問題や可能性**を捉え、**人々に価値あるソリューションを創造し実現する**変革が強く求められている。本プログラムでは、ビッグデータ、複雑システム、ヒューマンシステムの**先端 ICT を基軸とし、複数専門分野を統合して**、社会の喫緊の課題を解決し、あるいは**新たな価値をもたらす知識社会経済システムを創造的にデザインし、社会イノベーションを先導する**トップリーダーとチームを育成する。

修了者は企業、行政、公共機関、ベンチャー起業、NPO/NGO、研究機関等で次のような課題に取り組む：**スマート社会**(東北再生、インフラ、農業含む産業、流通、生活・文化、コミュニティ、医療・健康、災害・テロ耐性)、**次世代行政システム**(電子行政、意思決定支援、情報社会制度・政策等)、**新サービス創出**(ICT 高度活用での医療・健康・食・メンタルヘルスの向上、ビッグデータ・SNS・サイバーフィジカル・ロボット活用)。

＜人材像＞ 以下の能力を養成：(1) **情報および制度・経済の横串とグローバルな視点**で現代の社会・経済システムの本質的な**問題や可能性**を発見する能力。(2) **先端科学技術と人々にとっての価値・意味の両方を理解**し、高い理想と倫理のもとに、**新たな社会のビジョンと価値創造のシナリオ**を描く能力。(3) **先端 ICT と工学、農学、医学、社会科学の高度専門力**を基盤とし、**新たな知識社会経済システムを創造的かつ具体的にデザイン**する能力。(4) それを具現化するプロジェクトを、**ステークホルダーのコンセンサス**を得て、世界トップレベルの専門家集団を率い、**戦略的プロジェクトマネジメント**のもとに、**オープンスパイラル型の実践方法論で強靱に推進・達成**する能力と方法論自体を創造する能力。
 ＜博士論文＞ 学生が主体的に企画、実施し評価を受けたプロジェクト実践(約2年間)について、課題の発見・分析、計画、実施、評価、再利用可能な知見の抽出、今後の課題と展望を高い水準で記述したもの。特に**波及効果と社会先導性に重点**をおいた**独自の基準**を導入し開かれた学位審査を行う。

【特色】単なる複合専門教育や演習枠内の従来型 PBL を超えて、**ICT 高度利活用を基軸とする社会イノベーションに向けたオープンかつ発展的な取組**を本格展開し、その中で**実践的に人材育成**を行う。

本プログラムは、特定の専門や課題に閉じた従来型方法ではなく、**複数の専門と課題にまたがったオープンかつ統合的なシステムデザインの能力育成**を最大の特徴とする。このため、上述の課題および専門分野の全てから、産官民学の別や国境を越えた**25 の外部連携機関のトップ人材 30 名以上と東京大学の 9 部局 17 専攻の教員 70 名以上、計 100 名以上**からなる**世界トップレベルの指導者集団**を確保する。これにより、学生が自ら企画した**社会イノベーションプロジェクトのために縦横無尽に専門や業種を超えて複数の指導者を選定**することが可能となる。指導者集団は次の革新的な育成手法にも参加し強力に支援する：社会の第一線の**人材と学生が対等に白熱討論するグローバルデザインワークショップ**で新たな課題と企画を次々と打ち出し、**社会に発信して意見を募る**。これを**学生主体の個別プロジェクト計画**(実施期間2年程度)に具体化し、外部連携機関と共同設置する**プロジェクトインキュベーション機構**により始動し支援していく。育成システムや講義演習について、**産官民学協働**を特徴とする**評価・計画 WG 等で継続的に検証、改良し発展**させる。**積極的な対外発信と社会対話**を通して、これらを世に問い、**オープンな発展**を期する。

＜質保証システムの特徴＞ **専門基礎・実践力強化、三段階選抜と共通必修科目群**に加え、入学から修了まで**継続して密着型多元評価**を行い、**リーダー、マネジャー、スペシャリスト等のロール(役割)適性評価の付与、進路振分や奨励金への反映**に加え、**キャリアパスポート**として交付し、就職先に提出させる。**個別指導メンター**の報告を踏まえ、産官民学協働の**学生評価委員会**が社会の**人材ニーズ**も反映しつつ評価する。また、追跡調査等に基づき**評価法の継続的改善**に力を入れる。

＜キャリアパス支援＞ 経団連等の外部連携機関と協働し、**質保証と連動した特別枠設定**も含む**キャリアパス**を設計し、上記ワークショップ等での交流も連動し**学生の能力を活かす場**を提供する。

【優位性】

- ・**卓越した先端 ICT 研究教育基盤**：ビッグデータ時代を先取りした**情報爆発プロジェクト**、大きな成功を収めた**東大グリーン ICT**、高度な複雑系科学による**社会課題への取り組み**、先進の**ヒューマンインタフェース技術やロボット技術の実績**。

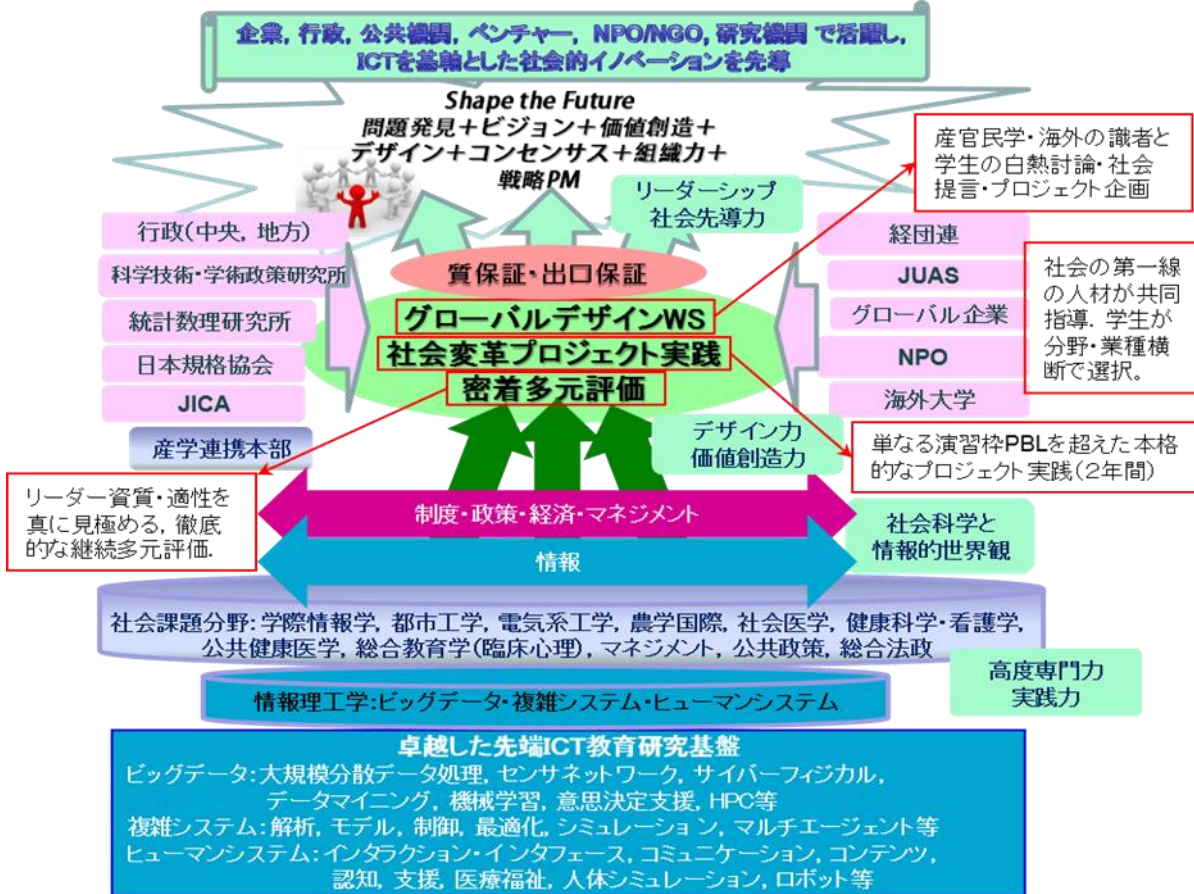
- ・**東大のポテンシャルを発揮する学内連携**：社会課題領域と社会デザインに関わる**工学、医学、農学、社会科学の分野のトップレベルの専攻教員との協働**による強力な研究教育体制。

- ・**産官民学・海外の強力な外部機関との密な協働**：経団連、日本情報システム・ユーザー協会、公的研究機関、行政機関、NPO、グローバル企業、ベンチャー企業・起業家、海外大学等との密な協働により、**キャリアパス設計、学生プロジェクト支援、ワークショップ、インターンシップ、メンター・講師派遣、プログラム改善等**を効果的に推進する。経団連等5機関とは覚書を交わし、本提案の構想段階から協議を重ねており、**共通理解と協力体制**が確立している。

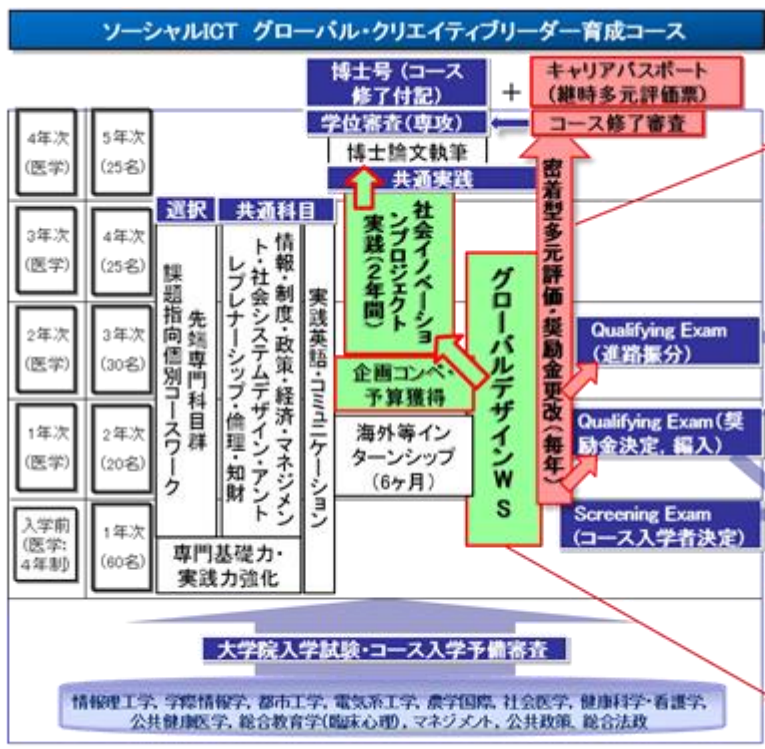
- ・**産学連携、国際化教育の強力な実績**：産学連携 R2P、北京特別入試、情報理工学国際センター等。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



課程構成



指導教員, 外部指導者, メンターが密着評価, 進路選択に反映, ロール(役割)選択に反映, Qualifying Examに反映, 毎年奨励金更改に反映,

既存博士 編入(主に社会人約10名)

既存修士

学生が主体的に, グローバルデザインWSの結論を具体化しプロジェクト企画立案, コンペ・予算獲得(外部資金含む)を経て実際の社会変革プロジェクトを実施, これが学位研究,

プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

本プログラムで学生が培った俯瞰力と独創力、そして活力と実現力は、アカデミアの枠を超えた多岐にわたる活躍に現れ、多彩な受賞、起業、外部資金獲得、国際プロジェクト等に結実した。

【社会に貢献する独創的技術と社会実装のための起業活動】

(1) 今年度修了見込の D3 学生 (知能機械情報学分野) は、使用者の観点から使いやすく低価格の電動義足を追求し、新機構を発明して特許出願、博士論文を仕上げつつ、人々に広く使ってもらうために起業を目指し、ベンチャーのメッカ、米国 SXSW (South by Southwest) で発表し、Interactive Innovation Awards 学生部門賞の日本初受賞に輝き、ジェームズ ダイソン アワード 2017 国内最優秀賞も受賞、JST START の資金を得て事業化に向けた取組も行っている。

(2) 平成 29 年度修了生 (電子情報学分野) は、スマート農業普及のため、印刷回路技術と無線給電技術を統合して、導入・運用コストが劇的に低く実用性の高い土壌センサネットワークを実現し、特許出願。国内 20 か所以上 (農水省革新的技術創造促進事業など)、インド 7 か所 (国際科学技術共同研究推進事業など) の多様な圃場環境で実験を重ね、センサの信頼性を磨き上げた。これを、創業当初から立ち上げに加わった東大発ベンチャー企業を通して商品化し、社会実装している。修了後は同企業の技術者と東大の特任研究員の職を両立しつつ活躍中。

【ICT 活用による社会課題解決の本格プロジェクト】

(3) D2 学生 (社会情報学分野) は、孤立やメンタルケアが大きな社会課題となっている子育ての支援にチャットボット技術を活用するアイデアを本プログラム学生企画プロジェクトでプロトタイプ化した後、東京郊外の地方自治体と共同で実証実験を行い、さらに複数企業連携サービス構築による地域活性化プロジェクトに発展している。

(4) D1 学生 (公共健康医学分野) は、途上国の医療現場で医療情報管理の不備ゆえ患者ケアに支障が生じている問題に対し、低コストでタブレット端末で手軽に使えるシステムを学生企画プロジェクトで開発し、ネパール地方部で実証実験を行って成果をあげ、ネパール政府とも交渉、連携して普及活動に着手、平成 29 年度に特定非営利法人 (NPO) を設立して本格的に取り組んでいる。

【数々の学生起業家】本プログラム学生は、次々と起業し、代表者として活躍している。

(5) マネジメント分野 M1 時起業: 「日本を医療の最先進国にするためのクラウド型総合情報システムの開発・普及」、(6) 学際情報分野 M1 時起業: 「芸術作品の新たな評価・経済エコシステムをサイバースペースで構築」、(7) 創造情報分野 D2 時起業: 「AI システムの研究開発及び介入型人工知能の開発」、(8) 臨床心理学分野 (修士修了後起業) 「認知行動療法を活用したビデオゲームやチャットボットで、日本のメンタルヘルス問題の解決を目指す」、(9) その他、博士 (3 年次) 編入前に起業した例、在学中に起業に参加した例が複数ある。

【多彩な受賞、外部資金獲得、国際共同研究】(10) 社会情報学分野 D3: 国際学会 e-Case&e-Tech 2016-Fall にて、Distinguished Paper Award を受賞 (D1 時) → リバネス研究費プロト賞受賞 (研究費 + 研究用ビッグデータ) → UC Davis と共同研究、(11) 「知能機械情報学分野 M2: Innovative Technologies 2016 採択 + SIGGRAPH Asia 2017 Best Demo 受賞 + H29 東京大学総長賞 (学業)、(12) 医学系分野 D1 時: 「明日の象徴」 (医学分野イノベーター) + 読売新聞総合 2 面「顔」欄掲載 (H28. 2. 6)、(13) 知能機械情報学分野 M2 時: IPA 未踏プログラム採択、(14) 公共政策 M1 + 教育学 M1: 博士課程教育リーディングプログラム第 3 回ビジネス構想コンペティションファイナリスト発表部門最優秀賞、(15) 国際学術会議等受賞 12 件、国内学会等受賞 14 件、コンペ等受賞 14 件等。

プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

【全学的取り組み】 東京大学では、「東京大学ビジョン2020」(平成27年10月策定)を全学で共有し、総長のリーダーシップの下、大学院教育改革を強力に推し進めている。重点施策である「国際卓越大学院(WINGS)」構想では、博士課程教育リーディングプログラムで整備した学位プログラム制度を基軸として、トップクラスの優秀な学生を対象とした修博一貫学位プログラムを全学で展開する。従来の大学院教育の枠を越えた部局間の連携や融合、産業界や海外研究機関等との連携、QEによる質保証の仕組み、全学的なプロパティマネジメントを活用した共有スペースの確保、URAの重点配置による支援体制の確立などの博士課程教育リーディングプログラムにおける取組や成果は既に定着しており、WINGSの各教育プログラムにおいて発展的に継承される。なお、東京大学は、指定国立大学法人構想を契機として「東京大学ビジョン2020」を拡張し、これを実現する司令塔として、総長を本部長とする「未来社会協創推進本部(FSI:Future Society Initiative)」を設置(平成29年7月)した。加えて、FSIの下に「国際卓越大学院タスクフォース」(座長:大学院改革担当理事)を設置し、全学的な観点から大学院教育改革を推進する仕組みを整えた。

他方、補助事業終了後の安定的な学生への経済的支援が課題となる。これについては、大学全体のスケールメリットを活かした財源の多様化、財源構築による基盤財源の充実や、経済的支援の在り方の転換(給付型支援から対価型支援へ)に大学全体として取り組み、支援の充実と恒久化を図る。

【本プログラムの取り組み】

学位審査改革・リーダー人材育成理念の共有: 本プログラムの修了審査は、従来の博士に要求される専門学術の水準を満たした上で、学生が取り組んだ社会イノベーションプロジェクトの波及効果と社会的先導性という新たな観点から行うことと定め、博士学位審査委員会に原則1名以上の本プログラム担当者を委員として加えて行う方式を確立した。これを、本プログラムに参加する文理にまたがる9研究科17専攻の教員、学生に徹底するため、ガイダンスや文書通知に加えて、本プログラム学生の3年次(D1)進学時および博士論文執筆前(D3)に、指導教員と学生に対する面談や説明・意見交換会を実施し、理念と改革意識を学内に広く波及させてきた。

大学院組織再編: 本プログラム開始と同時に、共通の理念を掲げた「ソーシャルICT研究センター」を幹事部局の情報理工学系研究科に設置し、新分野の開拓と本プログラムの推進母体を担わせた。同センターは、学内措置により配置された教員ポストと外部資金や産業界からの経済的支援も活用し、補助事業期間終了後の定着・発展にも中核的な役割を果たす。さらに、同研究科では、上記理念をさらに発展させ大きく展開させるべく、情報科学技術の最先端を先鋭化させつつ、様々な他分野・他部局との統融合を推進し、さらに、この基盤の上に、あるべき将来の知能社会ビジョンのもとに次々と新たな分野、価値を創出し、その中で卓越した人材を育成する取り組みを体系的に具現化すべく、5個の連携研究機構、2個の研究科内センター、2件の横断的プロジェクト、国際卓越大学院、等からなる大規模な改革構想を急ピッチに推進している。

産業界、他大学、社会への発信・波及: 本プログラムは申請以前より経団連はじめ産業界、行政、公的機関等の有識者と議論を重ねて計画し、密に協働・実施し、毎年、経団連委員会での報告と議論、産業界・他大学等に向けた公開シンポジウム等で発信・波及してきた。また、他大学との共催シンポジウム、他大学リーディングプログラムのイベント参加等による共有・波及も行った。さらに、雑誌やWeb記事での紹介、GCL-Web、GCLニューズレター(毎月発行、Web公開)、学生ワークショップ報告書Workshoppers(毎年発行)等で、広く社会に対して発信・波及を行った。